

企業の未来を 博士人材と切り拓く

活躍事例と企業の声から、
博士人材の可能性を考えるシンポジウム

2026

9.15 火 参加無料
事前申込制 15:00～17:00

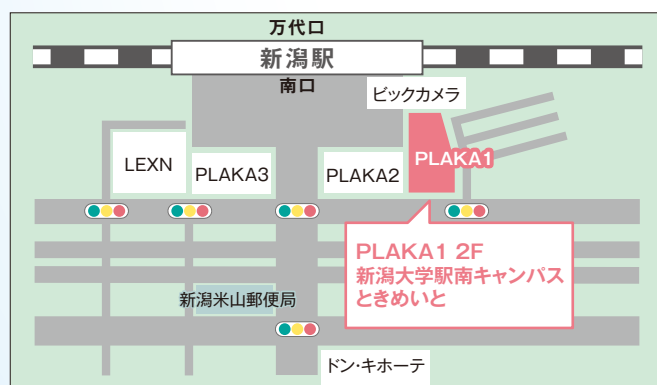
AIの急速な普及、技術革新、地域課題の複雑化により、企業にはこれまで以上に「自ら課題を発見し、解決策を構想できる人材」が求められています。

本シンポジウムでは、博士人材の活躍事例や企業での受け入れ事例を通じて、博士人材の可能性と産業界での活かし方を考えます。

対 象

- ▶ 企業経営者
- ▶ 企業の人事・採用担当者
- ▶ 高度人材の活用や人材育成に関心のある方

会 場 新潟大学 駅南キャンパス ときめいと



開催方法 現地とオンラインのハイブリッド開催
(現地定員 60 名程度)

お申し込み 下記 QR コードよりお申し込みください
<https://forms.office.com/r/Y2biuMm3KX>

お申し込み締切日 9月11日(金)

主 催：新潟大学 未来先導大学院推進本部

問合せ先：新潟大学 未来先導大学院推進本部
(学務部教務課大学院支援係)

✉ flags.adm@niigata-u.ac.jp



本シンポジウムは、
新潟大学 J-PEAKS と
連携し開催しています



Program

1. 10min	開会挨拶・趣旨説明 理事(教育・グローバル推進担当)・副学長 大鳥 範和
2. 20min	博士の活躍が地域を、社会を、日本を飛躍させる 理事(社会連携・経営戦略担当)・副学長 川端 和重
3. 30min	博士人材の活躍事例 博士人材からの声 株式会社ナルサワコンサルタント 技術本部・係長 高野 陽平 様 富士通株式会社 富士通研究所 研究員 池田 和泉 様 株式会社 NTT データ オートモビリティエンス研究所 第3 事業部 技師 中野 泰河 様 企業からの声 フジコーポレーション株式会社 代表取締役 藤井 大介 様
10min	～休憩～
4. 30min	パネルディスカッション モデレーター：未来先導大学院推進室長 飯島 想
5. 5min	閉会挨拶 特命理事(FLAGS担当) 末吉 邦
15min	～閉会後のフリー歓談～

(約120min)

人と社会の未来を切り拓く――

グローバル社会を牽引する 博士イノベーター育成大学院拠点

大学院は総合知を 創出する場へ

新潟大学は、文部科学省の令和7年度「未来を先導する世界トップレベル大学院教育拠点創出事業」に採択されました。同事業は、「徹底した国際拠点形成（国際化）」と「徹底した産学連携教育」の実施を通じて、豊かな学識と国際性、高度な実践性を身に付けた博士人材を育成する機能を高めるとともに、組織内の資源配分の見直し等を通じて、質の高い博士人材の増加を図る大学院教育拠点の形成を支援することを目的とするもので、本学は「総合型」（申請18件：採択4件）に採択されました。本事業によって、令和7年～令和13年の間、支援を受けることになります。

新潟大学は、10年後の大学院のVisionとして、高度な専門性と文理融合・分野横断の学際的環境のもと、「総合知」を創出する教育と社会共創事業と産学連携の場を活用した実践型大学院教育によって、総合知・実践力を備えた複合的社会課題を解決できる「博士イノベーター」を養成する大学院教育拠点を形成し、博士の学位取得者の増加を図ります。

企業・産業界の皆様へ

新潟大学は地域社会の皆様とともに、社会課題解決型研究・産業共創・人材循環を通じ、高度な専門性と実装力を兼ね備えた「イノベーションを創出する博士」を育成します。

お問い合わせ先

新潟大学

未来先導大学院推進本部

(学務部教務課大学院支援係)

〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町8050

TEL 025-262-6543

✉ flags.adm@niigata-u.ac.jp

<https://www.niigata-u.ac.jp/flags-jp>



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

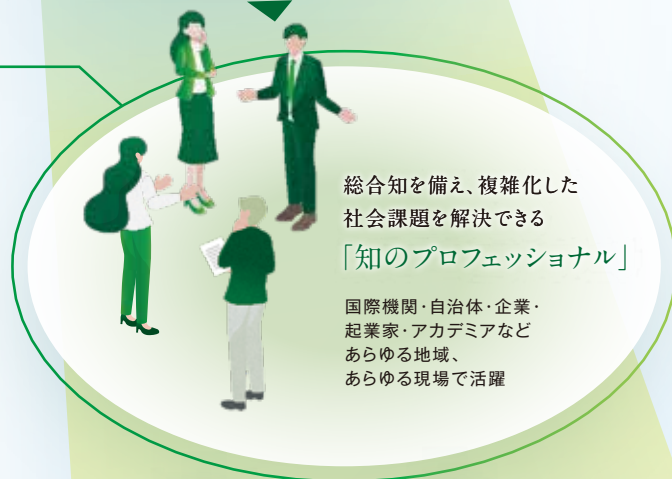
教育改革の全体像

3つの戦略の循環により、高度な「総合知」を持つ博士人材を育成する。



新潟大学が育成する 博士イノベーター

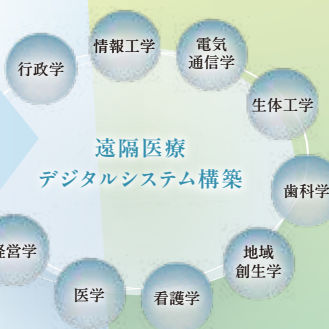
従来の専門のみでは解決できない複雑化した社会課題に対応できる高度専門人材が求められています。新潟大学は、このような社会の要請に応える博士人材を育成する責務があると考えます。大学院改革を通して、すべての教員が、博士人材育成を担う体制を構築し、博士イノベーターを社会に輩出します。



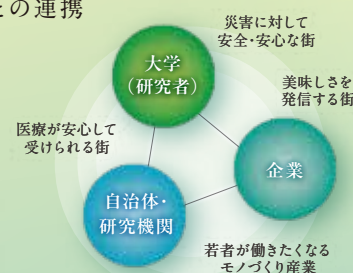
総合知を活かす例

背景

医師不足・医療資源の地域偏在
医療アクセス格差
感染症対応
医療需要の増加と医療費抑制
超高齢社会への対応
医療・看護・介護人材不足



共創イノベーションプロジェクトとの連携



組織型活動（地域創生）

多数の参画者（ステークホルダー）構成に拡大抽出された地域課題（概念）解決に多様な方法で取り組む課題解決に向けて集合したグループ
多様な分野・強みを生かす群構成

地域の

健康共創社会の実現へ